

令和元年第2回定例会一般質問通告事項

6 月 21 日 午 前	杉原孝一郎議員（尾道未来クラブ）	質問方式：一問一答方式
	<p>1 「私たちの視線が市民に向いているかどうか、あらためて見直して欲しい」平成22年に市長が職員に訓示した一節です。市長は、この「市民」とは、どういう人たちを指すのか、市民に向くとは職員に何を期待していたのか</p> <p>2 市長の公約「これまでの尾道を超えるまちづくりの骨組み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで助け合う安全安心な暮らしづくり ・自分たちのまちに誇りを持ち、住み続けたいまちづくり ・地元の産業を応援し、成長するまちづくり ・子育て環境を充実し、子どもの未来を応援するまちづくりをし、これまでの尾道を超えていきたい <p>以上4項目について</p> <p>21 (1) 「まちづくりの骨組み」について約束する事業は多いが、いずれも費用と事業期間が明記されていない。これでは単に政治宣伝用のパンフレットになってしまう。この中で、市長がマニフェストとして費用、事業期間を明記して取り組みたい喫緊の事業は何か</p> <p>(2) 新幹線が素通りしていた時代、尾道は廃市といわれ暗黒の時代だった、と言う意味の発言をされているが、私は初耳。これはどなたがどのような意図で発言されたものか、また市長はどういう思いでこの発言を引用されたのか</p> <p>3 イノシシの人的被害を防ぐ、抜本的施策を早急に進めなければならない、その理由について</p> <p>(1) 過去13年間で人口は1万4,000人減ったが、イノシシの捕獲数は292頭→1,497頭と5倍強に増えている。しかも日中出没している。人的被害も平成30年は6件と激増。すでに危険水域。抜本的施策でイノシシが住みにくい環境整備に早急に取り組んで市民の安全を守るべきではないか</p> <p>(2) 鳥獣対策課を新設して専門性を高めるべきではないか</p>	